

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193200041		
法人名	社会福祉法人 新生会		
事業所名	グループホーム もやいの家瑞穂		
所在地	岐阜県瑞穂市本田2050番地1		
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果市町村受理日	令和7年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=2193200041-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和7年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2ユニットの間仕切りを最小限にする事で、利用者が選択できる小さなリビング等の環境を複数設けている。天井高も工夫し日本家屋にならった鴨居1.8mと低い部分を設える事で家庭的な雰囲気を出し1つの空間が集団的な支援になる事を防いでいる。

コロナが5類になり、中止していたアニマルセラピー等のボランティアの受け入れも徐々に再開し、利用者の楽しみが出来ている。また、日々のお地藏さん参りや、日光浴など外気に触れる事で季節が感じられるように支援している。去年は、敬老会にご家族を招待し一緒に長寿を祝い、利用者・家族共に喜ばれた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、デイサービスが併設されており、利用者同士も馴染みの関係となり、イベント等では共に楽しんでいる。2ユニットの間仕切りは最小限とし、自由に往来ができるが、食事場所と寛ぐ場所は区分されている。3ヶ月に1回開催している利用者、家族、担当職員の担当者会議では、利用者の日常生活や介護計画の進捗状況などを説明している。利用者の状態を見てもらいながら、質問や要望を聞いている。管理者は、「地域福祉の拠点づくり」として、地域の代表と共に高齢化率についての課題点を挙げながら、話し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が	53	職員は、活き活きと働けている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時研修・障害体験。スキルアップ研修を通じて、法人の理念を学び、相手の立場に立って介護をする事を職員全員が意識し実践している。毎月、管理者を交えた部門会議や職員会議で全職員と理念を共有している。	法人理念、しんせい語録、職員個々の目標を、日々確認し、部門別会議や職員会議でも振り返りを行なっている。理念を共有し、法人・施設・拠点ごとに目標を細分化しながら、職員自らが考えて実践できるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症により、地域交流を中止していたが、今年度から地域の感染状況を踏まえながら、ボランティアの受け入れ、デイサービスと合同で鑑賞会を開催するなど行った。また、本田小学校の福祉共育授業で施設を訪問し交流を図っている。	コロナ禍で自粛していた地域との交流が、戻りつつある。小・中学校の訪問や専門学校・大学の研修、体験学習等の受け入れを行いながら、介護業界の後継人育成にも力を入れている。「地域福祉の拠点づくり」として、住民と共に活動に取り組んでいる。	高齢化率の高い地域、低い地域があり、課題は様々である。今後も、福祉の現場を担う事業所として、実体験や取り組み例について地域と話し合いながら、協働作業が行える事を期待したい。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回の運営推進会議では写真を使って利用者の生活状況を報告している。リスクの報告では原因や今後の対応策を伝え、参加者から意見を頂いている。	運営推進会議を開催し、運営状況、ヒヤリハット・事故報告等を行なっている。面会場所の説明やサロン、健康教室開催等の活動を報告し、参加者と意見交換している。今後、学校や警察署などの参加依頼を検討するとしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、地域包括支援センター、広域連合職員と運営推進会議にて利用者の状況報告や取り組みについて報告している。コロナ感染症により中止していた介護相談員の来訪も再開し、意見を聞く事でサービス向上に繋げている。	市町村関係者と共に、地域高齢者の実態について話し合い、地域福祉の充実に向けて、現場の意見も具申しながら、助言や指導を得ている。コロナ禍で中止していた介護相談員の受け入れを再開している。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、委員会にて検討している。また、会議や勉強会にて身体拘束や言葉による拘束（スピーチロック）について学び、日中は施錠せず、家族にはリスクについての説明もし合意を得てケアに取り組んでいる。	併設事業所と合同で、身体拘束廃止委員会を毎月行っている。身体拘束及び言葉による拘束について、勉強会も行っている。会議内容・資料などは、全職員に回覧している。施錠については、家族の同意を得た上で、利用者の状態を把握しながら、安全第一に対応している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について研修にて学び、虐待防止委員会で毎月検討されている。また、部署会議や日々の申し送りで確認、話し合いをしながら取り組んでいる。	虐待防止委員会は身体拘束廃止委員会と共に開催している。部署会議に於いても、虐待防止法について確認している。マスコミによる報道なども教材にしながら研修を行い、管理者は、職員と日々、コミュニケーションを図りながら、精神的サポートも行なっている。		

岐阜県 グループホームもやいの家瑞穂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践者研修、認知症実践リーダー研修の修了者より、制度について部署会議にて共有。利用者や家族、外部からの相談に対応できるようにしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学、事前訪問、契約と十分な時間を取り家族からの質問に回答、説明し理解を得ている。また、改定がある場合も担当者会議や電話などで家族に説明し、納得していただき了承を得ている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、自由に意見を出して頂けるようにしている。また担当者会議にて家族に意向や要望などを伺っている。利用者においては日々の会話や生活の中で思いを聞くように努めている。	運営に関する利用者・家族の意見を把握するため、3か月毎に担当者会議を行い、家族に介護計画の進捗状況などを説明している。家族も、介護現場を見ることで、本人及び職員との絆が深まり、喜びの声も届いている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、リーダー職員は部署会議や面談時にはもちろんのこと日常的にも職員の意見や思いを聞き、利用者の立場に立って考えチームで共有しながら運営に反映させている。	管理者は、日常的にシフトに入っており、職員の意見や要望を聞くようにしている。ミーティングでも話し合っている。職員は、スキルアップできるよう研修希望等を伝え、より介護力を高めた上で利用者へのサービス向上に取り組んでいる。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	年度初めと、年度末に定期面談を個別で行い、勤務体制の確認や日々の思いや考えを聞き、働きやすい環境作りに努めている。また、一人ひとりが年度末にチャレンジシート、自己分析を行い振り返る機会を設けている。	管理者は、職員それぞれが働き易いよう、定期的に職員面談を行い、勤務体制や要望について希望を聞き、職場環境や就業環境の整備に取り組んでいる。職員も自己分析を行いながら、ケアを振り返り、向上心を持って取り組んでいる。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部や法人内の研修の案内を回覧し、自由参加を促したり、面談時に個人的に必要な研修を勧めスキルアップに努めている。	職員個々の力量に合わせて、法人内研修を選択することができる。職員は、自身が参加したい研修を受講できるよう、管理者やリーダーと相談している。職員が安心して受講ができるよう、勤務調整も行っている。	

岐阜県 グループホームもやいの家瑞穂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	「みずほおれんちぶろじえくと」「みんなずっとほっと隊」等、瑞穂市の福祉従事者が集まり、地域づくりの企画、参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前情報をもとに本人の強みや得意なことを把握し、居場所作りや生活の楽しみを感じていただけるように支援している。家事作業を通して利用者同士、職員のコミュニケーションをはかり関係構築に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でコミュニケーションを図りながら本人の思いや希望の把握に努めている。面会時や担当者会議で家族の思いや意向を確認している。本人から意向などの訴えが困難な場合は、専門的な視点と家族の意向をもとに検討している。	職員は、日々の生活支援の際に利用者のしぐさや表情を注意深く見るよう心がけている。趣味の話等では、話しやすい雰囲気作りに努め、意向の把握に努めている。利用者の思いや希望が実現できるよう職員間で情報を共有し、困難な場合は家族の協力も得ている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリング評価を行い、部署会議で意見交換している。必要に応じて多職種の意見を交えながら介護計画の作成をしている。また状態変化がある時には担当者会議を開き、家族の思いを聞きながらプランを作成している。	3か月に1回、家族参加にて、介護計画作成会議を開き、モニタリング評価については、部署会議でも意見交換をしながら、プランを作成している。計画の進捗状況を具体的に検討しながら、柔軟に見直しを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や気付いた事はその都度記録に残し職員間で情報共有している。タイムリーな情報は申し送りで共有している。情報をもとに、ケアの提供、介護計画の見直しを行っている。	日々の利用者の様子は、職員同士が申し送り時に口頭でも伝えている。タブレット端末やパソコンで利用者毎に詳細に状態を記録し、職員間で情報を共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や受薬など家族対応が難しい場合は職員にて対応している。状態の変化や家族の要望を含め歯科往診、理美容など柔軟なサービスの提案を行っている。	職員は、利用者1人ひとりの福祉用具の利用状況を観察している。場合によっては、法人内の専門職に報告し、意見や指導を得ている。家族の希望も聞きながら、専門医への受診支援など、柔軟に対応している。	

岐阜県 グループホームもやいの家瑞穂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1回のアニマルセラピーやボランティアによる読み聞かせ、アルパの演奏会など生活の楽しみに繋がっている。地域住民の子供みこしの休憩場所としてもやいに来た時は外に出て見学する事ができた。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。継続が難しい場合は事業所の協力医に変更を行い、適切な医療が受けられるように努めている。	入居時に、かかりつけ医についての事業所の方針を説明し、本人・家族が選択している。ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医とし、往診を受けている。訪問看護ステーションの看護師が利用者の健康状態を、日々、確認し、医師との連携を図っている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	スムーズな治療ができるように、利用者の情報提供している。入院中は定期的に家族や医療機関に連絡して利用者の状態の把握に努めている。退院時にはカンファレンスを開き、本人の生活のサポートのあり方を検討している。	入院時は、利用者の情報を医療機関に提供し、管理者は情報共有に努めている。担当職員や家族の意見も聞きながら、関係者と情報を交換を行なっている。早期退院に向けては、事業所の受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期のあり方について家族の意向を確認している。また、状態の変化時にも再度意向を確認し、主治医、看護師を交えて担当者会議を行い、事業所で出来る事、出来ない事を確認しながらその方らしい終末期をチームで支援している。	契約時に、重度化や終末期の対応について、事業所の方針を利用者・家族に説明し了解を得ている。状態の変化時には事業所で出来ることを説明し、主治医、看護師を交えて話し合い、方針を共有している。エンゼルケアについても家族と相談しながら実施している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会議で毎年救急法の勉強会でロールプレイを行い、また、誰もが出来るようにマニュアルを作成している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施し全員が初動動作が取れるように訓練し、マニュアルの整備、見直しを行っている。地域連携協定を結び他施設とも緊急時の協力体制を整えている。また、新たにBCPについても会議で机上訓練を行っている。	年2回、夜間想定を含めた防災訓練を実施し、BCPについても、研修を重ねている。併設事業所と共に、通報や安全な避難誘導などを実践し、備蓄の完備、点検を行っている。災害時においては、要配慮者の受け入れを可能とする民間協定施設として市と協定を結んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を損なわないように、言葉使いや声のトーンに気を付けて対応するように気を付けている。毎月の接遇のチェックシートや毎朝の接遇環境委員会の申し送りで繰り返し伝えている。	接遇やプライバシー保護についての研修は必修であり、全職員が学んでいる。利用者一人ひとりの人格尊重、プライバシーの確保を常に意識し、支援に努めている。毎朝、接遇環境委員会の申し送りがあり、職員は、利用者に向けての言葉遣いや対応等、適切な支援に努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自分で選択していただけるよう声掛けを行っている。意思表示が難しい場合でも表情や反応からご本人の希望に沿った選択ができるように対応している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活習慣やその日の体調に合わせ、食事の時間を遅らせたり、レクへの参加も希望を聞いて支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる、行事食やお菓子作りをして、楽しんで食事ができるように支援している。利用者のできる力を活用して、おかずの盛り付けや食器洗い、食器拭きを職員と共にやっている。	主食、汁物は事業所で準備し、副食は管理栄養士が立てた献立で法人の配食サービスから届いている。お菓子作りやお好み焼き作りなど、利用者の希望を聞きながら、職員と共に楽しみながら行っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がカロリーの過不足や栄養の偏りがない様に献立を立てている。また、利用者の咀嚼、嚥下状態、アレルギーに合わせて代替えや食事形態を変更。一日に必要な水分が取れるように家族の協力も得て本人の好きな飲み物を持参してもらっている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・夕の口腔ケアの声掛けをして出来ないところは職員が介助しながら口の中をチェックし異常がある時は家族に相談し、歯科受診をしていただいている。また、家族の希望で歯科往診をしていただいている利用者もみえる。	毎日、3回の口腔ケアを行なっている。自立支援が基本であり、出来る範囲で利用者が自分で行っている。介助が必要な部分は職員が支援している。利用者の口腔内をチェックし、受診が必要な場合は家族に連絡して、歯科医につなげている。	

岐阜県 グループホームもやいの家瑞穂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表で排泄のパターンを把握し、パットのアセスメントを行い、排泄の失敗や使用を減らし、気持ちよく過ごせるように努めている。利用者のできる力を使い援助が必要な部分をサポートしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の健康状態を確認し、本人の思いや気分を聞きながら、提供日等を考慮している。羞恥心や負担感などアセスメントして、個々に合わせた環境作りや方法を取り入れ気持ちよく入浴していただけるように努めている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常の家事活動やレクリエーションで心地よく疲れ安眠に繋がるように支援している。本人の体調によって居室やソファで休養を取り入れている。夜間眠れず起きてみえる時は、ホットミルクなど提供して、職員が話を傾聴するなどの支援をしている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より薬剤情報が届いた際には、薬の変更や追加等がないか確認し職員、看護師で情報共有している。臨時薬が出た時にはパソコン入力情報共有すると共に薬箱にメモを貼り飲み忘れがない様にしている。	服薬管理は、管理者と担当職員が行い、薬局からの薬剤情報を全職員に説明し、看護師と情報共有をしながら適切な支援を行なっている。変更や臨時薬がある場合は、メモを貼るなど、誤薬防止に努めている。服薬支援時には複数の職員で飲み終わるまでの確認を行なっている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴を基に強みを生かした役割を提案。楽しみながら行える雰囲気作りを心掛けている。	できる範囲で、利用者と共に掃除、洗濯たみ、作品作りなどを行っている。また、得意な分野で力を発揮できるよう支援している。家族の希望で脳トレなども行っている。職員は、作業後には労いと感謝の声かけで、コミュニケーションを深めている	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や喫茶店等の外出はまだできていないが、日光浴を兼ねたお地蔵さん参りや近くの神社への参拝、季節のドライブ等外気に触れる機会を設けている。	コロナ禍で自粛していた支援は、以前のように行なえていないが、庭の散歩、地蔵参り、日光浴等で気分転換を図っている。自宅の仏壇参りや家族との食事を楽しむ利用者は増えている。現在、年間の外出計画を検討中である。	

岐阜県 グループホームもやいの家瑞穂

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人にとって必要な物があれば家族に了承を得て一緒に買い物に行き、本人のお小遣いから購入している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により家族に電話してほしいと言われた時や、家族から電話があった際、本人と話ができる機会を提供している。また、家族あてに暑中見舞い等を送り家族から返事をもらう等の支援をしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に木目調の落ち着いた作りになっている。サロンがいくつかあり陽ざしを取り込み利用者同士が談笑できる空間作りをしている。花壇の花を利用者と一緒に行けたり、こいのぼり、ひな人形など季節を感じられる環境作りを心がけている。	共用空間は開放感があり、清潔である。複数のテーブルや椅子が設置され、好きな場所で食事もできる。利用者同士が自由に語り合うことのできるサロンも複数ある。利用者の笑顔の写真や、季節感ある共同作品が多く掲示され、窓から外の景色を眺めることのできる環境である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で集えるリビングの他一人でゆっくり過ごせるサロンもあり、その日に気分によって使い分けができるように配慮している。また、家族の面会もサロンを利用している。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅で使用していた馴染みのタンスや椅子を持参していただき、居室作りの協力を得ている。家族の写真や小物等を飾り、安心できる環境作りをしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に暖簾や表札を飾り、自分の部屋が分かるようにしている。個々の居室の近くの洗面所に口腔ケアセットを準備し、自身で歯磨きに行ったり、食堂の椅子に座布団を敷いて自分の席が分かるように工夫している。		